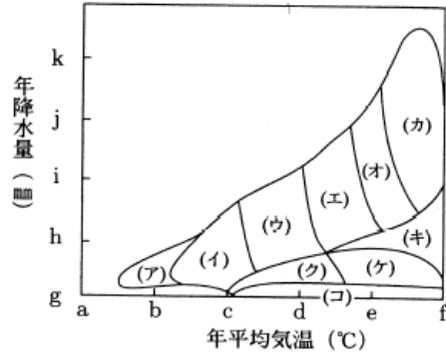


★鈴フリ★センター生物基礎★第2学期★第5講★

★復習問題★

1 植生は温度と降水量によって、おおむね決定される。下図は、冬雨型気候の地域を除いた世界のバイオームの区分を気温と降水量の関係によって模式的に表したものである。



問1 年平均気温 0°C を示している目盛りと、年降水量 4,000mm を示している目盛りを图中的 a~k からそれぞれ選べ。

問2 図の(ア)~(コ)に相当するバイオームの名称を答えよ。

問3 下記の記述はどのバイオームの特性か。図の(ア)~(コ)からそれぞれ選べ。

- (a) 多種で階層構造の発達した樹高の高い常緑樹林。つる植物や着生植物も多く、種あたりの個体数は少なく、優占種がない特性をもつ。
- (b) 日本の中部地方では、標高 2,000m 付近で見られる。
- (c) 森林を構成する樹木の葉は表面にクチクラ層が発達し、光沢がある。
- (d) 夏は緑葉をつけ、冬には落葉する。したがって、バイオームの相観は季節によって著しく変化する。
- (e) 乾燥と冬の低温によりイネ科草本が優占し、大木がほとんど見られない。

問4 下記の植物はどのバイオームを代表するものか。図の(ア)~(コ)からそれぞれ選べ。

- ① クスノキ ② ブナ ③ シラビソ ④ チーク ⑤ コメツガ
- ⑥ スダジイ ⑦ タブノキ ⑧ トウヒ

2 中部山岳地帯の垂直分布に関する次の問いに答えよ。

垂直分布	バイオーム名	植物名
(e) 帯	高山低木林・高山草原	(A)
(d) 帯	(g) 樹林	(B)
(c) 帯	(h) 樹林	(C)
丘陵帯	(i) 樹林	(D)

わが国のバイオームは、水平分布では亜熱帯から(a)まで緯度や気候帯の違いによって異なっているが、垂直分布でも(b)によってバイオームが一定の順序で配列している。本州中部の太平洋側での垂直分布では、上のように植物帯が分けられている。(b)が約 700m までは丘陵帯、約 700m から約 1700m までは(c)帯、約 1700m から約 2500m までは(d)帯、約 2500m よりも上方は(e)帯である。また、森林限界の(b)は約(f)m である。

問1 上の文および表の(a)~(i)に適する語または数字を入れよ。

問2 上表の(A)~(D)に属する植物名を、次の(ア)~(ケ)から全て選べ。

- (ア) トウヒ (イ) タブノキ (ウ) アラカシ (エ) ブナ
- (オ) キバナシャクナゲ (カ) コメツガ (キ) ハイマツ
- (ク) ミズナラ (ケ) スダジイ

★鈴フリ★センター生物基礎★第2学期★第5講★

★解答★

- 1 問1 0°C→c 4000mm→k
問2 (ア) ツンドラ (イ) 針葉樹林 (ウ) 夏緑樹林 (エ) 照葉樹林
(オ) 亜熱帯多雨林 (カ) 熱帯多雨林 (キ) 雨緑樹林
(ク) ステップ (ケ) サバンナ (コ) 砂漠
問3 (a) (カ) (b) (イ) (c) (エ) (d) (ウ) (e) (ク)
問4 ① (エ) ② (ウ) ③ (イ) ④ (キ) ⑤ (イ) ⑥ (エ)
⑦ (エ) ⑧ (イ)
- 2 問1 (a) 亜寒帯 (b) 標高 (c) 山地 (d) 亜高山 (e) 高山
(f) 2500 (g) 針葉 (h) 夏緑 (i) 照葉
問2 (A) オ、キ (B) ア、カ (C) エ、ク (D) イ、ウ、ケ

★次回の授業のコピー箇所★

テキストの p 4 7

★テキストの宿題★

テキストの p 7 6～7 9 【演習 2-4】 & 【演習 2-5】 の 2 問！

Ⓢ ↑ p 7 9 の(3)は「生物」範囲なので、一切やる必要なし！！